

# 株式会社 美田園ファーム



## 1 現在の経営状況等

### (1) 経営理念, キャッチフレーズ等

無理のない適正な規模で効率的かつ収益性の高い経営を行う。

黒字決算を維持する。

### (2) 栽培技術の特長

工夫してコストを下げて、機械化を図って対応していく。乾田直播、湛水直播、移植栽培を作付計画に応じて組み合わせる。

土地利用型作物の病害虫防除用に産業用ヘリコプターを所有しており、自社の圃場で利用しているほか、周辺地域の作業受託を行っている。

### (3) 販売の特長

米は50%を系統出荷とし、残りの大部分は販売部門を担う関連会社（株式会社美田園マルシェ）を新たに設立して、大口顧客やインターネットを通じた一般消費者への直接販売を行っている。

また、一部は名取市へのふるさと納税に対する返礼品としても出荷している。

### (4) 経営組織の特長

次の世代のことを考えて、今は後継者を経営者として育成しており、今後任せていく。

組織で必要なものは、組織で購入する(共同利用では大規模経営のメリットが半減してしまうため)。

新たに機械等を購入する場合は、可能な限り自己資金で購入する。

水稲苗の販売とともに水稲用育苗ハウスを利用した野菜（ほうれんそう、オクラ）の生産販売を行っており、労働力と施設の有効利用による収益性向上を図っている。

### (5) 労務管理の特長

ロスのないタイムマネジメントの徹底。  
公務員並みの給与、代休制の導入、社員旅行の実施などを実践し、社員にとって魅力的な労働環境作りに努めている。

### (6) 経営管理の特長

5つの部門があり、どの部門の収益性が高いのかが分かるように部門別に決算を行っている。

### (7) その他, 特筆すべき事項

農地中間管理事業を活用して農地集積を進めている(約10ha)。

農閑期にはライオンズクラブやロータリークラブ会員をはじめ学識・異業種の人達と積極的に幅広く交流し、情報収集して経営に役立てている。

## 2 法人設立までの変遷

### (1) 法人設立の動機, きっかけ

経営規模の拡大にあたり、経営基盤の強化と地域社会からの信頼を確実なものにするため、震災前から法人化を考えていた。

## 経営のプロフィール

### 経営概要

水稲46ha（飯米 28ha, 飼料用米 18ha）, 大豆17ha, 野菜（ほうれんそう, オクラ）81a（水稲育苗ハウス利用）

### 主な施設・機械の保有

- ・トラクター（135hp×2台, 85hp×1台, 65hp×1台, 60hp×1台, 54hp×1台, 32hp×1台, 27hp×2台）
- ・田植機（8条×2台）
- ・大豆播種機（1台）
- ・ロールペーラー（1台）
- ・ドリルシーダー（1台）
- ・ライスセンター（乾燥機60石×4機, 50石×3機, 粉摺り機2台, 精米機等2台, 色選機3台）
- ・育苗ハウス（270㎡×30棟）
- ・産業用無人ヘリコプター（3機）
- ・コンバイン（6条×2台）
- ・フォークリフト（1台）
- ・レーザーレベラー（1台）
- ・ケンブリッジローラー（1台）

### 構成員等

役員（取締役等）：5名, 従業員（常時雇用）：5名

### 法人設立年月日

平成23年6月30日

### 認定農業者認定年月日

平成29年6月1日

### 資本金

500万円

### 販売額等

約9,800万円,  
収入算入交付金等：約2,500万円（経営所得安定対策等）

### 役員名

代表者：大友 正一,  
取締役：大友 博和, 大友 一枝, 大友 仁, 大友 秀一

### 補助事業, 制度資金活用実績

東日本大震災農業生産対策交付金事業（H23）  
被災地域農業復興総合支援事業（H24, H25, H26）

## (2) 法人化に至る経過等

担い手農家として経営を続けていたが、震災後担い手となる農家の減少や被災農地の再編整備により急激な作付面積の増大が予想されたため。

## (3) 法人化後の評価(良かった点等)

目標としてきた9桁農業を達成できた。今後も経営を発展させていきたい。

## 3 今後、将来に向けてのビジョン等

### (1) 将来ビジョンと経営戦略等

収益性の向上に向けて、加工品の製造販売による6次産業化への取り組みも考えている。

### (2) 達成に向けた課題及び取り組み状況

今後の6次産業化にあたっては、取り扱い分野や開始のタイミングを見極めるのが難しいと考えている。

(調査：巨理農業改良普及センター)

## 略図



株式会社 美田園ファーム  
〒981-1214 名取市杉が袋字前沖175  
TEL 022-384-8767  
FAX 022-796-6386

## 視察受入条件

視察受入は実施しておりません。